

平成28年11月29日

生駒市議会議長 中谷尚敬様

厚生消防委員会委員長 伊木まり子

## 委員会調査報告書

当委員会で調査した事件の調査結果について、生駒市議会会議規則第107条の規定により、下記のとおり報告します。

### 記

- 1 派遣期間 (1) 平成28年10月12日(水)  
(2) 平成28年11月10日(木)
- 2 派遣場所 (1) 生駒市老人クラブ連合会  
(2) 生駒市地域包括支援センター
- 3 事 件 高齢者交通費助成について
- 4 派遣委員 伊木まり子、恵比須幹夫、中浦新悟、桑原義隆、片山誠也、久保秀徳
- 5 概 要 別紙のとおり

## 厚生消防委員会ヒアリング調査報告書

### ヒアリング先

生駒市老人クラブ連合会

実施日時：平成28年10月12日（水）午前10時

### ヒアリング目的

「高齢者交通費助成事業（生きいきカード）」について、自ら健康活動や社会活動等を活発に行っておられる高齢者が在籍する老人クラブ連合会からヒアリングを行い、交付後の利用実態等を確認する。



### 老人クラブ連合会からの聴取内容

#### 【1】生きいきカードについて

##### ①利用の実態

主に目的としては、行楽、旅行、通院・お見舞い、老人クラブ連合会などの会議出席・市などのイベント参加の際の交通費などに活用している。また具体的な内容として、毎月地域の老人クラブでウォーキングイベントを実施しており、年3回は市外に出かけている。その際の交通費として活用している。

利用交通機関としては、電鉄や最寄りの駅までのバス乗車、コミバス（※光陽台線のみ利用可）の利用に使う。コミバス利用者はその運行終了後や土日のバスの無い時間は別の交通手段の費用に利用している。

##### 《その他》

- ・地域によるが、生駒市中心部への交通費が高く、年数回生駒駅に出てくるだけで、生きいきカード1万円分はなくなる。鹿ノ台から生駒駅では1回往復で約千円かかる。
- ・家族を介護している方から、付添っての外出に利用でき有難い、との声も聞いている。
- ・生きいきカード1万円分が次年度まで残ることほぼない。
- ・寝たきりの方・施設に入所している方やその家族が、カードを人に譲っている、生きいきカードを転売していると聞いたことがある。

##### ②現行制度に対する意見等

交付対象者である70歳以上の方からの意見としては、そのほとんどの方が、本制度の継続を求めており、制度に感謝をされていた。また、市立病院、寿大学、地域ボランティアなどへの参加にも費用が必要なため、制度に大変助かっているという声や現状、将来の交通費助成を楽しみにしている方が多いという意見があった。

反対に、まだ交付対象でない70歳以下の方からは、交付辞退を検討しているという意見や、次世代に負担が行くのは困るが必要な方もいるという声があった。

## 《その他》

- ・生きいきカード交付は、交付を断ることができることを知らない。
- ・生きいきカードの利用は本人のみでなく、その介助者も使えることを知らない。

### ③制度の今後のあり方に対する意見

- ・生きいきカードについて、今後、制度の廃止、新たな制度の実施などがある場合、現行の施策と新たな施策の両方が選べるようにすればよい。
- ・介護認定を受けている方は別のサービスが受けられることから、交通費助成は介護認定を受けていない方を対象にすればよい。
- ・寝たきりの人や施設に入所中の人はカードを使えないので別の形で支給してはどうか。
- ・カードの交付は本人の直接受け取りに限ってはどうか。
- ・財政難となることを避けるため、交通費助成は辞退したい。
- ・一生懸命働き税金を納めてきた「団塊の世代」が制度改変時にいつもターゲットにされるのは不本意。
- ・生きいきカードにおいては電鉄利用者が最も多く、スルッとKANSAIが絶対必要という意見があった。
- ・奈良交通の「ゴールド倶楽部定期券」（対象は65歳以上の方、一定額を前納しておけば所定期間、1乗車100円で乗り放題または半額になる）を選択肢に加えてほしい。
- ・制度開始から18年が経過しこのままで良いとは思わない。何らかの変革をしていく時期と考える。
- ・本制度の実施をやめた場合、約2億円の事業予算は何に使われるのか、使い道が示されていない。宙に浮くのは反対。
- ・一旦助成を手にしたら放したくないのは当然で、既存の制度の継続・廃止の決定は難しい。しかし、どんな環境で実施され維持されてきたのかを見たら考えが変わるはずだ。

### 【2】その他（高齢者福祉施策全般・老人クラブについてなど）

- ・高齢者が住みやすい街というのは、若者が住みやすい街であり、行政として方針を立てる、予算を充てる必要がある。
- ・高齢者が生涯にわたり地域で住み続けることを目指す、地域包括ケアシステムの構築に生きいきカードで使われている予算を回すべきだ。
- ・限られた原資を時代に応じた施策に再配分する必要があるのではないか。
- ・地域での活動の担い手をどう育てていくか、老人クラブにおける高齢化も課題であり、地域を育てる（地域のあり方を考える）という点、地域での活動の担い手を育てるという点に行政はもっと目を向け、力を入れてほしい。
- ・世代間交流は大切であり、老人クラブと若者の交流の場を作っていく必要がある。
- ・老人クラブ連合会への補助金は年々減少傾向にあり、世代間交流事業の補助は半分までとなった。事業に係った費用を全額負担してくれないのはおかしい。
- ・他の自治体の事例も参考にし、65歳以上の老人クラブへの加入を義務付けてはどうか。
- ・地域において老人クラブの果たすべき役割は大きい。元気なうちに加入し、活動しても

らうべきだ。

- ・北地区住民（鹿ノ台、鹿畑）が市立病院へ行くための交通手段づくりが必要ではないか。
- ・他市の事例（大阪市他）では、運転免許を返上した方に交通費助成をしている。生駒市においてはコミバスの路線をさらに拡充してほしい。
- ・市の催し等は、中地区に集中している。（鹿ノ台など）北部方面から催しに参加するには、交通の乗継が必要で、不便かつ費用がかさむ。その影響もあるのか、生涯学習フェスタ、寿大学への参加者が年々減っているのも移動手段の有無と関連しているのではないか。
- ・市に関連した活動、ボランティア活動等で市の中心部に行く際、交通費は自分で負担しなければならない。必要な活動経費は市の方で出してほしい。
- ・他の自治体では、移動支援のボランティア活動に対してポイントを付与する制度を実施している例がある。移動支援をすることで、獲得したポイントは地域通貨等として利用できる制度だが、生駒市でも導入を検討してみてもどうか。

### 委員の考察・意見等

- 「高齢者交通費助成要綱」の助成券を利用できる者に、「受給者及び介助者、受給者のための行為を行うもの」という、利用者の範囲規定をはじめて聞いたという方が意外にあった。単に「高齢者の交通支援」と捉えることに問題があるのではないか。高齢者にとって、身近な日常生活の中での関わり合いへの支援として位置づける必要がある。
- 「生きいきカード」の活用についても、ウォーキングや地域活動など有意義に活用されている実態がよく分かった。
- 老人クラブのメンバーの方々からは、仮に生きいきカードを無くすのであれば、代替事業をしっかりと示して欲しいという意見が盛んに聞かれたが、言い換えれば、代替事業をしっかりと示すことができれば、廃止も高齢者の理解を得られるとも言えるのではないかと考えられる。しかしながら、肝心の代替事業の提示は容易なものではないと考えられる。
- 交通費助成、移動支援については居住地域によって大きく異なる。各地域の実態に照らし、丁寧にニーズに応じていく必要がある。
- 高齢化の進行、運転免許証の返上推進——などを考え合わせると「移動支援」は必要と考えられる。
- 生きいきカードの本来の目的に沿った活用をされている事例をお聞きした。そのような活用をされている実態も考慮しなければならない。
- 「移動支援」は、▽福祉ボランティアの活用▽コミバスやデマンドタクシー等の交通網の整備▽既存交通を利用する際の利便性の向上、負担感の軽減——などを複合的に組み合わせ、あらゆるニーズに応じていかねばならない。例えば、地域包括ケアシステムのエリアごと、地域の条件、実態に見合った「移動支援計画」「移動支援実施計画」を作成する等の手立てが必要。

●「高齢者交通費助成事業（生きいきカード）」の是非を単に財政的負担（社会保障費の増大等）の視点、財政的な配分（他の福祉施策への）の視点のみならず、実態に照らし、まず何が必要かを見極めなければ施策の方向を見誤ってしまう。必要などころには、他を削ってでも予算を充当していく、それが本筋である。

●市立病院への通院、寿大学・地域ボランティアなどへの参加にも費用がかかる状況から、現行の交通費助成制度に感謝している意見があったが、制度の主旨をよく理解しているように思う。そのような意見を持つ人たちから、一方で、カードの交付は本人の直接受け取りに限るなどの制度改善すべきという意見、時代に応じて限られた原資を施策に再配分すべきという意見が出ている点を考慮すると、高齢者交通費助成について施策の変更などを行うのであれば、まずは現制度と新たな制度を併用すべきで、その後、新制度に移行する形がよいのではないかと。現制度は、支給額を維持しての継続が望ましいと思うが、減額も有効と考えられる。

●老人クラブ連合会役員は、基本的に社会参加をしている方々といえる。その中でも、生きいきカードに対する意見は様々である。特に会長、副会長からは社会全体の観点からの意見を多く頂戴し、本市の高齢者施策の在り方、そして今後の生きいきカードの制度変更について前向きな意見を頂いた。ただし、生きいきカード制度を廃止または変更するにおいて求めていることは、地域での活動者を育て、地域を育てる施策を進めるということであった。

私自身の感想としては、生きいきカードの代替で実施するのではなく、市として別に進めなくてはならない課題であるというように感じるところであるし、市としてもその課題は認識しているところである。ただ、即時に抜本的な制度設計ができるようなものではなく、生きいきカード制度廃止等の審議に代替案として示されるかどうかには疑問が残る。

会長、副会長以外の理事の方々の意見としては、現制度の継続を強く求めており、それは役職等立場による意見ではなく、個々の高齢者による意見であるように感じた。また本制度の使い方として、地域の集まりやイベントなどの交通費、所属している会の交通費などに利用されていることは、本制度の目的である生きがい、社会参加という点に大きく合致している。

市民の社会参加を促している本市において、現役世代より、高齢者の方々の方が、促しやすいといえる。事実、登下校時の見守り他様々な活動を担っていただいている。全世代をターゲットにするべきであるが、特に高齢者に対しどのようにアプローチしていくかは大変重要である。

●参加者の声から、平成8年の実施から20年近く続いてきた制度であるにもかかわらず、助成の趣旨、交付対象者など、要綱で規定された内容が周知されていないという印象を持った。

●カードを売却して現金に換えている人がいるという事例の紹介、これに対し批判的な発言があったが、市がこのような使い方を見過ごしてきたのは問題と考える。

- 生駒市は南北に細長く、また、坂道が多いなどの地形的な要因から、中心地や駅まで出てくるための交通手段の確保や費用負担が高齢者にとって大きな問題であることを改めて認識した。市として高齢者にとって費用負担が少なく使いやすい移動手段の確保を検討する必要があると考える。
- 会員のことだけでなく若者への負担軽減や若者の住みやすいまちづくり、コミュニティーづくりを真剣に考えておられること、ボランティア活動に取り組まれている様子、団体として健康づくりに取り組まれている様子など、老人クラブのみなさんの姿勢や活動の様子を伺う貴重な機会となった。

# 厚生消防委員会ヒアリング調査報告書

## ヒアリング先

生駒市地域包括支援センター

実施日時：平成28年11月10日（木）午後4時

## ヒアリング目的

“一人暮らし高齢者”や“介護認定を受けている高齢者”の生きいきカードの利用実態等を確認するため、当該高齢者と業務で接しておられる地域包括支援センター職員からヒアリングを行い、交付後の利用実態等を確認する。



## 地域包括支援センター職員からの聴取内容

### 1. 生きいきカードについて

#### ①利用の実態

- ・タクシーやバスの乗車の際に利用している。
- ・通院、買い物、市の行事への参加などの際に利用している。
- ・基本的に介護タクシーを使うのでいきいきカードの利用は少ない。介護保険をオーバーした時に生きいきカードを使っている。

#### 《その他》

- ・家族が利用している場合、他の人にあげる場合もある。
- ・タクシー券はすぐ使い切ってしまう。

#### ②制度の今後のあり方に対する意見等

- ・増額してほしいとの声を聞く。
- ・使えない状況にあっても、制度上、辞退ということにはなっていないので、認知症や施設に入所されている方など、使えなくて貯まっている方もあるようだ。
- ・もっと他の施策に税金を使ってほしいとの声も聞く。
- ・生きいきカードはいわばばら撒きであり良くない。本当に必要な人にゆきわたる制度としてほしい。
- ・所得等に応じた交付条件の線引きをして欲しい。
- ・高齢者の危険運転を防止するために、免許証返納時に生きいきカードをもらえるようにしてはどうか。

### 2. その他（高齢者福祉施策等について）

- ・コミュニティバスのような、地域の身近な交通をもっと充実させてほしい。
- ・坂道が多いので、何らかの移動支援は必要である。
- ・デマンドタクシーの導入を検討してほしい。
- ・市の催し物等は市の中央部で行われることが多い。催しごと、移動手段が必要な人に

送迎サービス等を提供してほしい。

- ・イベント等が市内中心部に集中しており、足が悪い方などは行きたくてもいけない状況にあることから、市内各地で開催してほしい。
- ・高齢者がウォーキングや買い物途中のあちこちで休めるようにベンチを設置したり、家の近くに地域の方々と出会える場や集える場を整備したりして、生き甲斐づくりにつながる場所を作ってはどうか。空き家の利用も検討を。
- ・近くに大きな病院がない。

### 委員の考察・意見等

- 高齢者の生きがい支援、社会参加の促進を図ることを目的に交通費補助制度が設けられた。しかし、その目的に対して、施策の効果を検証することは困難である。地理的条件や交通網整備の状況や公共施設等の立地の状況により、同制度の活用はさまざまである。高齢者が地域の中で、生きいきと健康長寿できるための、きめ細かい施策がさらに求められる。  
交通困難者への必要な交通手段の確保だけでなく、住民主体の地域のコミュニティのあり方についても、行政が一定の「ビジョン」を示して施策をすすめることが重要ではないか。
- コミュニティバスの拡充やデマンドタクシーの整備の必要性を改めて高く感じた。  
多くの職員の方から本事業に対して、否定的な意見が聞かれたことは、大変参考にするべきだと感じた。
- 老人クラブの皆さんが、実に有意義に生きいきカードを使用されていたのと対照的なものを感じた。本当に必要とされている人がいる反面、本日お話を聞いたようにそうでない人がいるところに本事業の是非の判断の難しさがあるのであろうが、本日伺ったように、必要とされていない方が一定数いる以上、一律交付の見直しもやむなしかと感じた。
- 市内各地域の特性に応じた、目的ごとの移動手段（通院、レジャー、買い物、イベント参加）を確保していくことが肝要である。
- 日常的に長い距離の移動が困難な状態となられた高齢者が、生活圏の移動範囲で立ち寄り、集い、交流できる「場」の設けることに関する提案があった。高齢者の年齢や体の状態に合わせた地域参加、社会参加の在り方を考える必要性を感じた。
- 「取り敢えず貰っておく」という意識で生きいきカード受け取り、溜め込んでおられる事実があると聞き驚いた。生きいきカードに限らず、求める人へ確実にサービス等が届く高齢者施策としなければならない。
- 地域包括支援センターの職員と接している高齢者は、交通費助成で助かっているとの実感が少ないように思われた。そのような高齢者からの直接の聞き取りではないが、職員の意見等を踏まえれば、そのような高齢者にとってはより効果のある対策が望まれていると考えられる。

- 介護認定を受けておられる高齢者になると、いきいきカードの制度があっても利用しきれないように感じる。利用していたとしても、生きがいつくりや社会参加という目的にあう使われ方とは言い切れない。介護認定を受けている方とそうでない方で、高齢者福祉施策に違いを設けることについては検討すべきである。特に、足が悪い方などができる限り外にでるよう働きかける施策。外に出かけて楽しみを見出しやすくなる施策は早急に検討すべきである。
- 一人暮らしの人、介護サービスを受けていられる高齢者にとっては、交通費の助成により恩恵を受けているという実感は少ないように思われた。生きがい支援、外出支援の観点からは、身近にあつまれる場所や居場所の整備や利用しやすい移動手段の導入が求められていると思われた。
- 助成対象者においても、交通費助成はバラマキと受け取る人や無駄な事業で若い世代を支援すべきと考える方が居られることなど、タウンミーティングではほとんど聞くことのできない介護サービス受給高齢者の声を伺う良い機会となった。
- ヒアリング終了後、出席者に尋ねたところ、要介護認定を受けておられる方は認知症の方や車いすを使っておられる方など、外出が容易でない方が多いとのことだった。受給者の状況を確認できた。
- 地域包括支援センター職員は高齢者に対し、丁寧に熱心に対応されているという印象を持った。